

2015年11月11日 第17回図書館総合展フォーラム

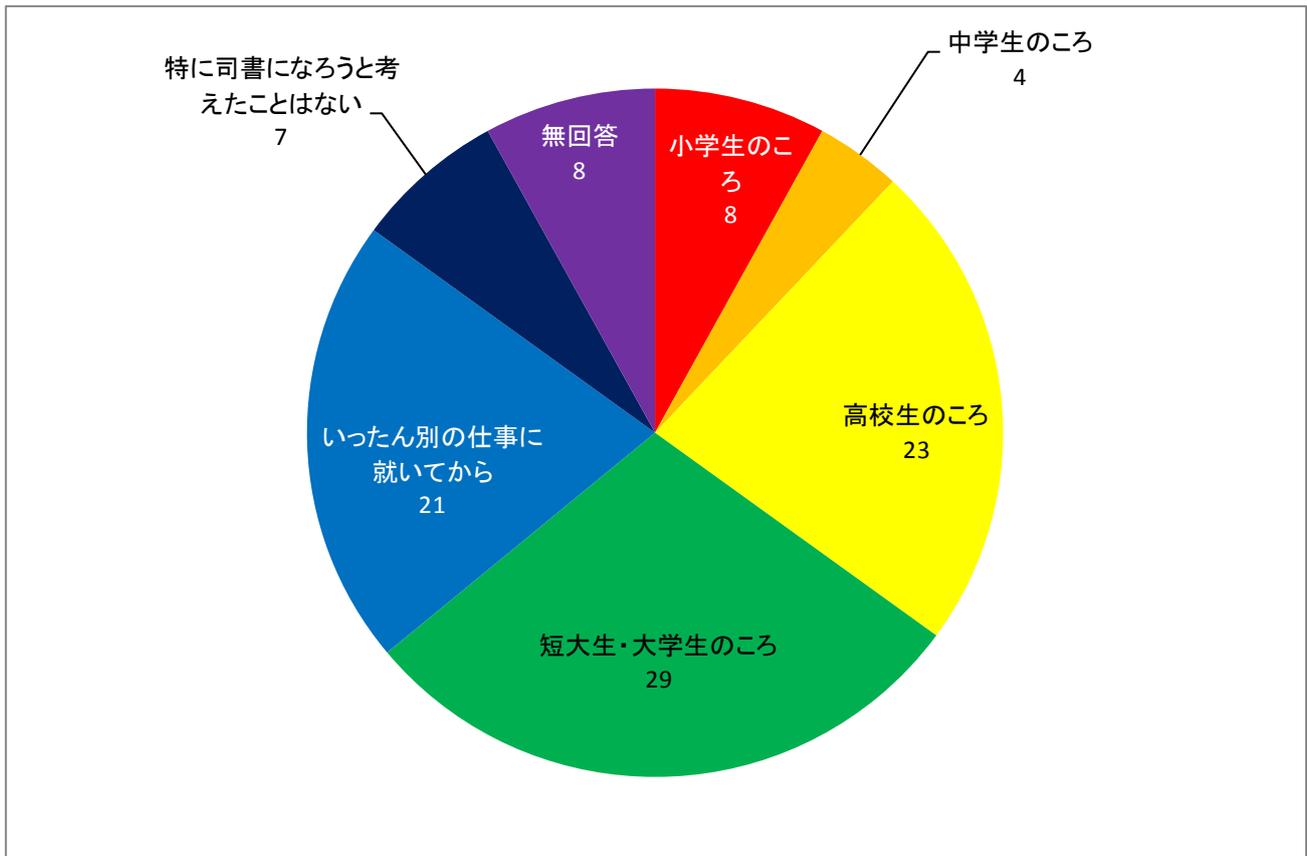
「図書館司書のキャリアデザイナー認定司書100人に聞きました！」配付資料

図書館司書のキャリアデザイン -認定司書100人に聞きました！

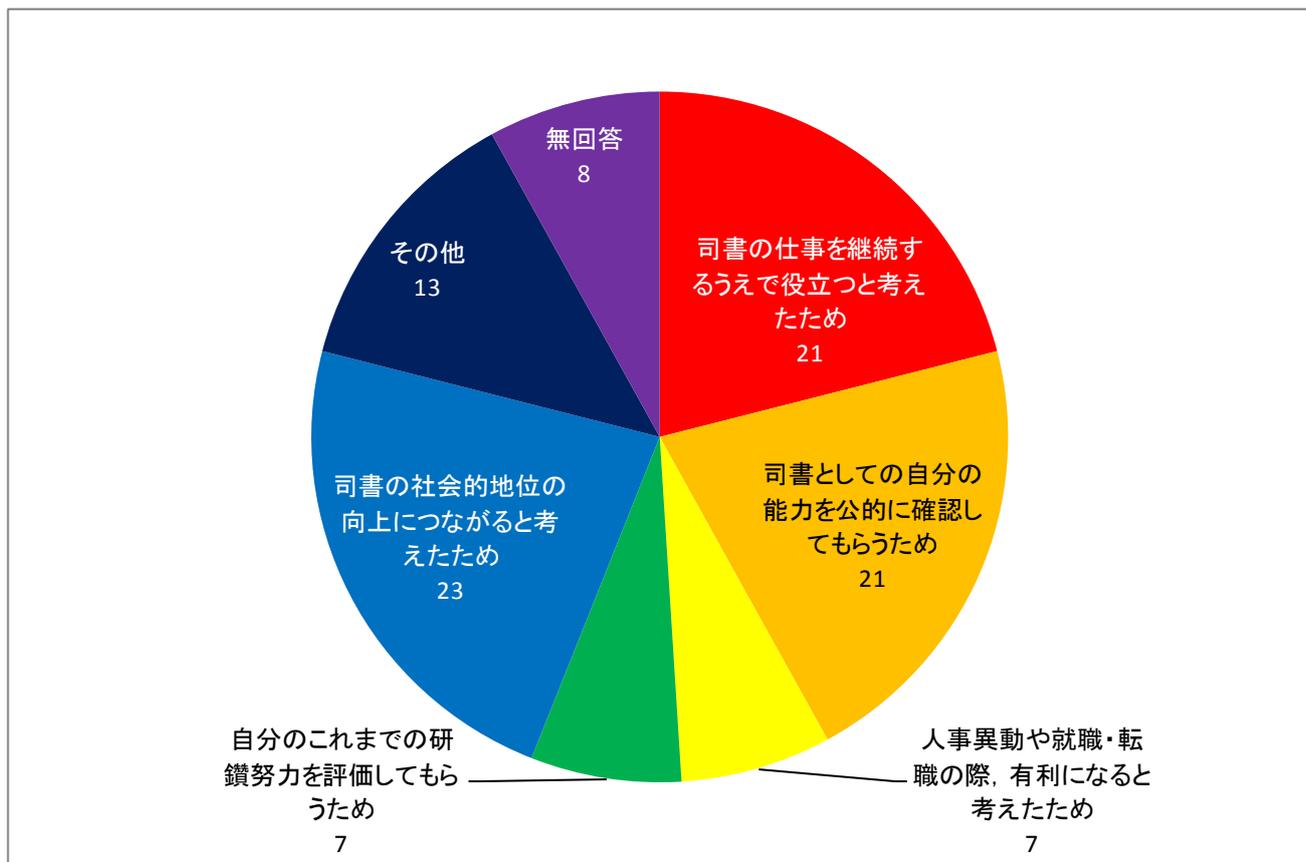


日本図書館協会認定司書事業委員会
<http://www.jla.or.jp/nintei/>

質問1 司書になろうと考えたのはいつごろでしたか?一つだけ選んで○で囲んでください。



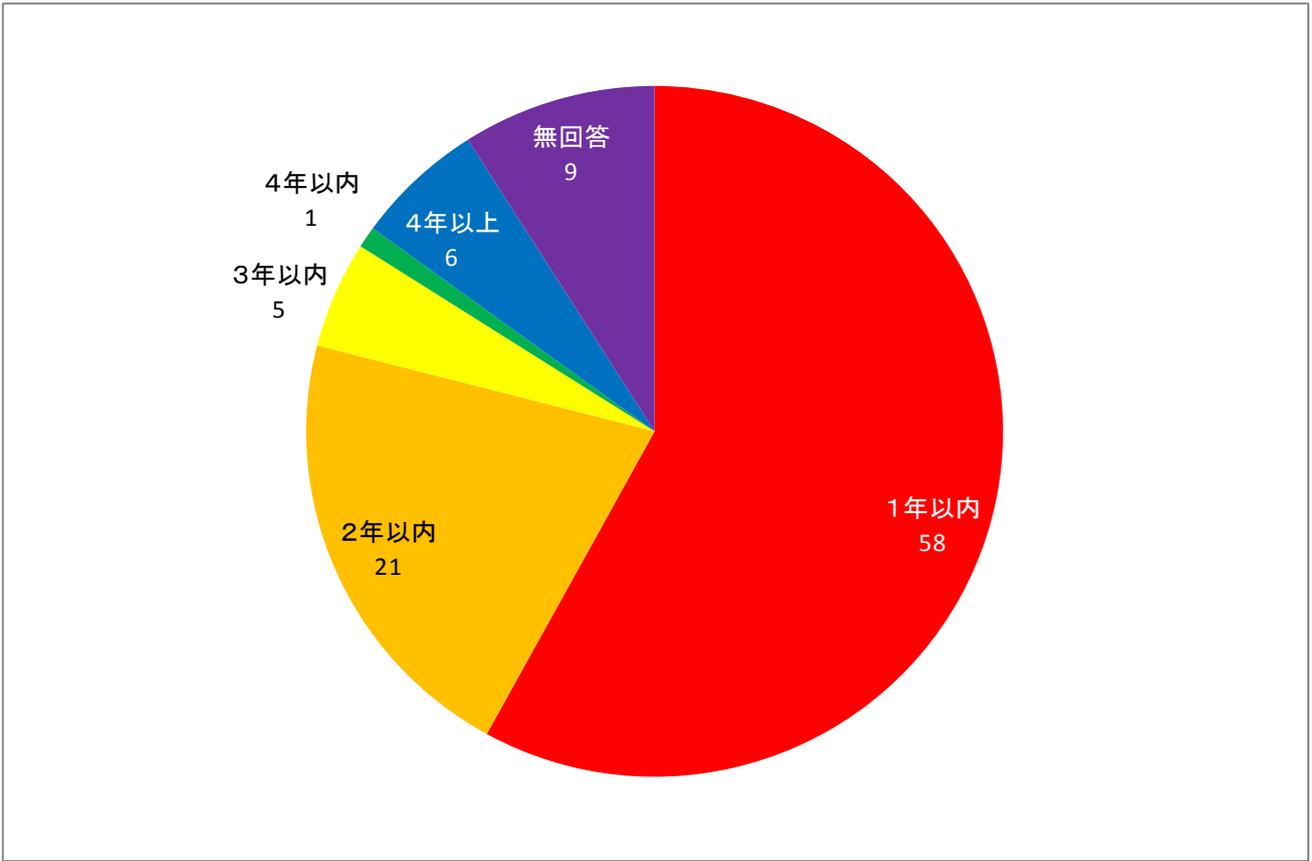
質問2 認定司書を目指した理由は何ですか？一つだけ選んで○で囲んでください。



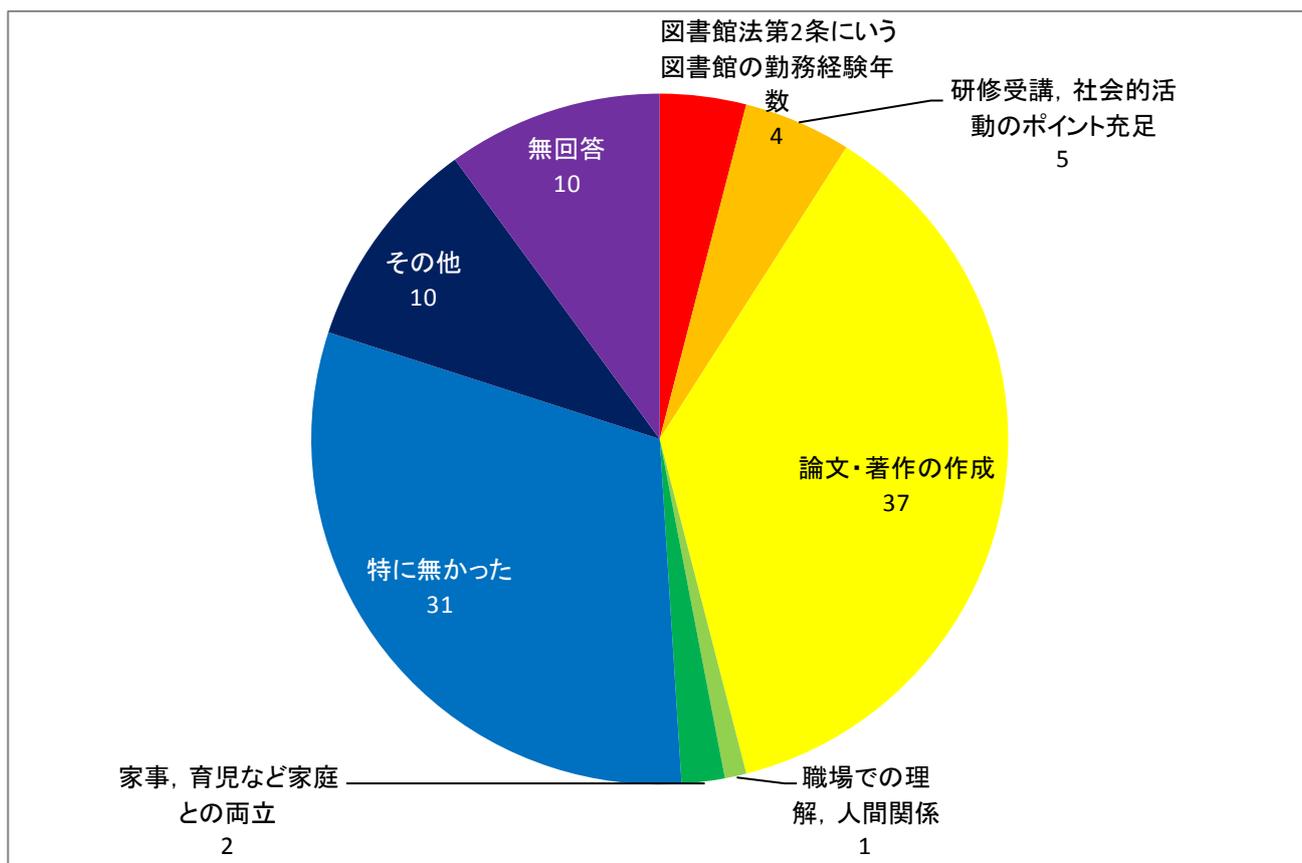
その他の記述

- 職場の上司からすすめられた
- 義理
- 取得をすすめられたから
- 特になし
- 奉職している自治体への感謝を形にするため
- 常に新しいことに挑戦してみたかった
- 自分の組織（市）に一人くらいいるべきだろうと考えた。残念ながら自分以外に要件を満たしそうな人はいなかった。ある意味責任と考えた。
- これまでの自分のふり返り、まとめの為
- 所属している図書館は大都市の図書館で、認定司書が1人もいないという状況を回避したいと思いました。全国に後れをとってはいけな思考えました。
- 上司に「どの程度の論文執筆実績があれば認定司書になれるのか知りたいので、試しに申請してみしてほしい」といわれたため
- 上司の勧めで

質問3 認定司書申請を決意してから、実際の認定までの期間は、おおよそどのくらいでしたか？



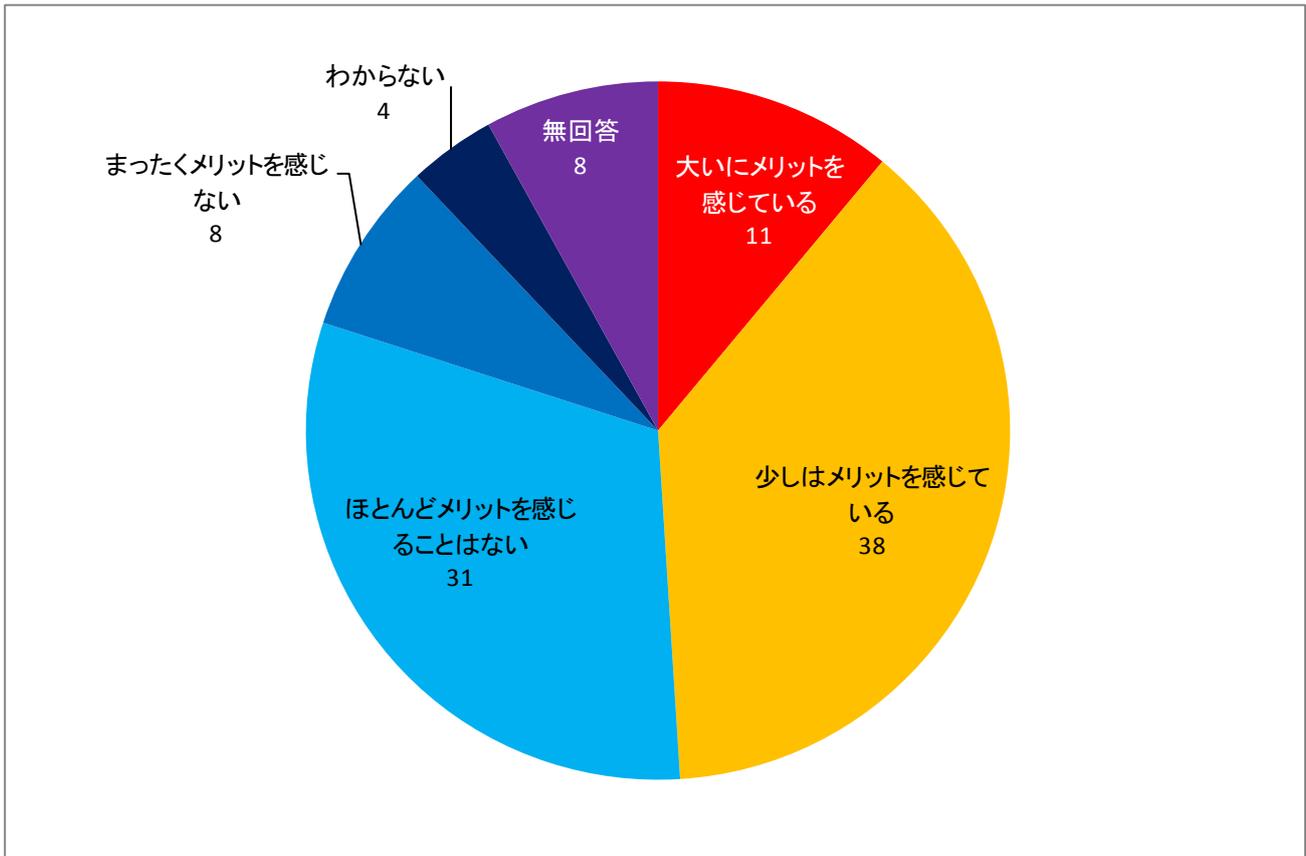
質問4 認定司書の申請にあたって最も課題となったこと、最も苦勞したことは何でしたか？一つだけ選んで○で囲んでください。



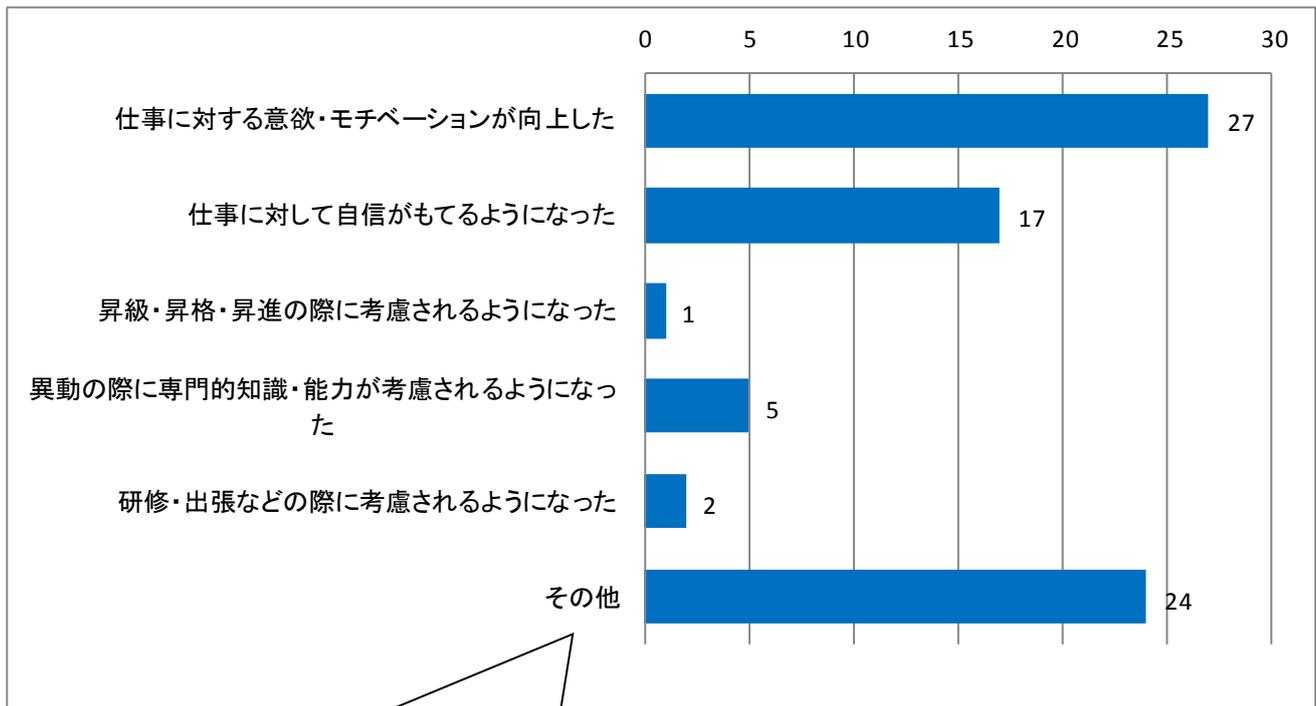
その他の記述

- 事務手続
- 申請をするかどうかの決断。認定司書として認められれば、今まで以上のプロ意識を持たねばならないのだろうか、この肩書きが自分にふさわしいのかという迷い。
- 過去の研修受講、社会的活動を改めて整理したこと
- 認定にかかる経費
- 過去の活動を確認すること、いちいち記録などしていなかったから
- 大学の単位取得証明の取得について。婚姻後の姓が異なっていたた、戸籍の証明が必要だった。
- 申請の時間の確保（添付資料の収集・事実確認）
- 申請書類の作成
- 申請書類作成
- 申請時に研修受講歴の確認

質問5 認定司書になってメリットを感じていますか？あるいは感じたことがありますか？一つだけ選んで○で囲んでください。

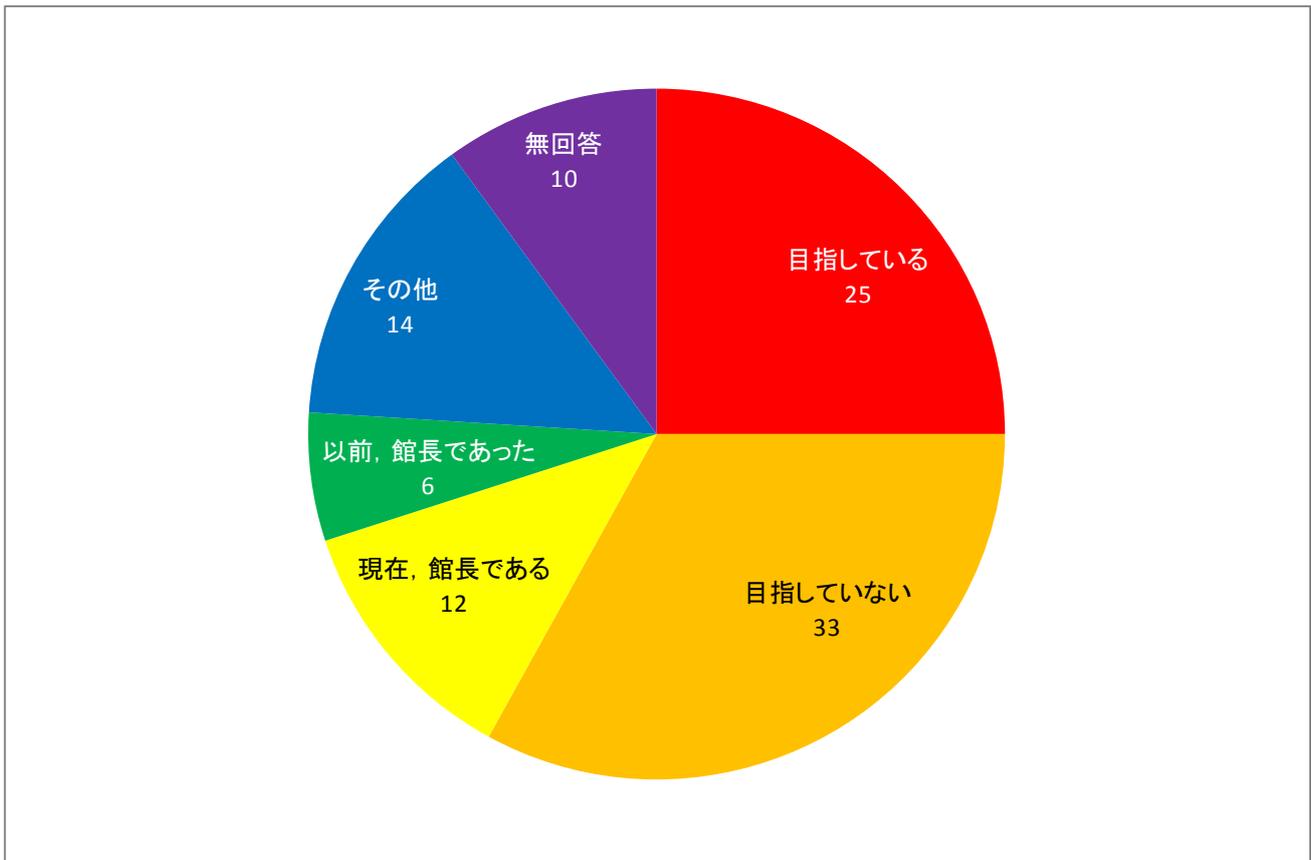


質問6 前問で「25. 大いにメリットを感じている」または「26. 少しはメリットを感じている」とお答えの方にお伺いします。そのメリットは具体的にどのようなことですか。あてはまる番号をすべて○で囲んでください。



- 自己紹介のとき話題にしやすい（図書館員同士）。他の認定司書とつながりやすい。
- 図書館関係の人とあいさつする際に一目置いてもらえる
- 対外的に説得力がある。事業者との対応などに自信が持てる。認定司書シールの貼ってある名刺を渡す時などちょっと気分がいい!
- 図書館関係者から評価してもらった
- 役所の中での図書館や職員の位置付けが少しは向上したと思うため
- 話題にできる。（主に図書館関係者との間で）ハッターがきく。
- 再就職の際、考慮していただいた
- 社会的活動の幅が広がった
- 全国に図書館員の友人が増えた。
- 図書館から異動後、外部講師をする際の肩書きとして書けるようになった。
- 名刺に記していると、初対面の人でもコミュニケーションがスムーズに行えることがあります
- 組織内（大学）において司書という図書館の専門職をアピールできたこと。教授会で学長からご報告していただき、司書の存在をアピールできた。
- 認定司書であることが考慮され、今年度4月より館長になりました
- 名刺交換等で話し話題になる
- 他の認定司書から学ぶことが多く、自館以外の図書館の動向を知り、司書との交流する機会が増えた。
- 「司書」という職種について周囲の関心が高まった
- 他都市の司書の方と交流が多くなった
- 図書館についてより深く考え・学びたいと思えるようになった。
- 全国の図書館員との交流が増えた
- 全国の仲間とある種の連携、つながりがもてるようになること
- HPを見て声をかけていただくことがあるので
- 職場以外の人とのつながりが増えた

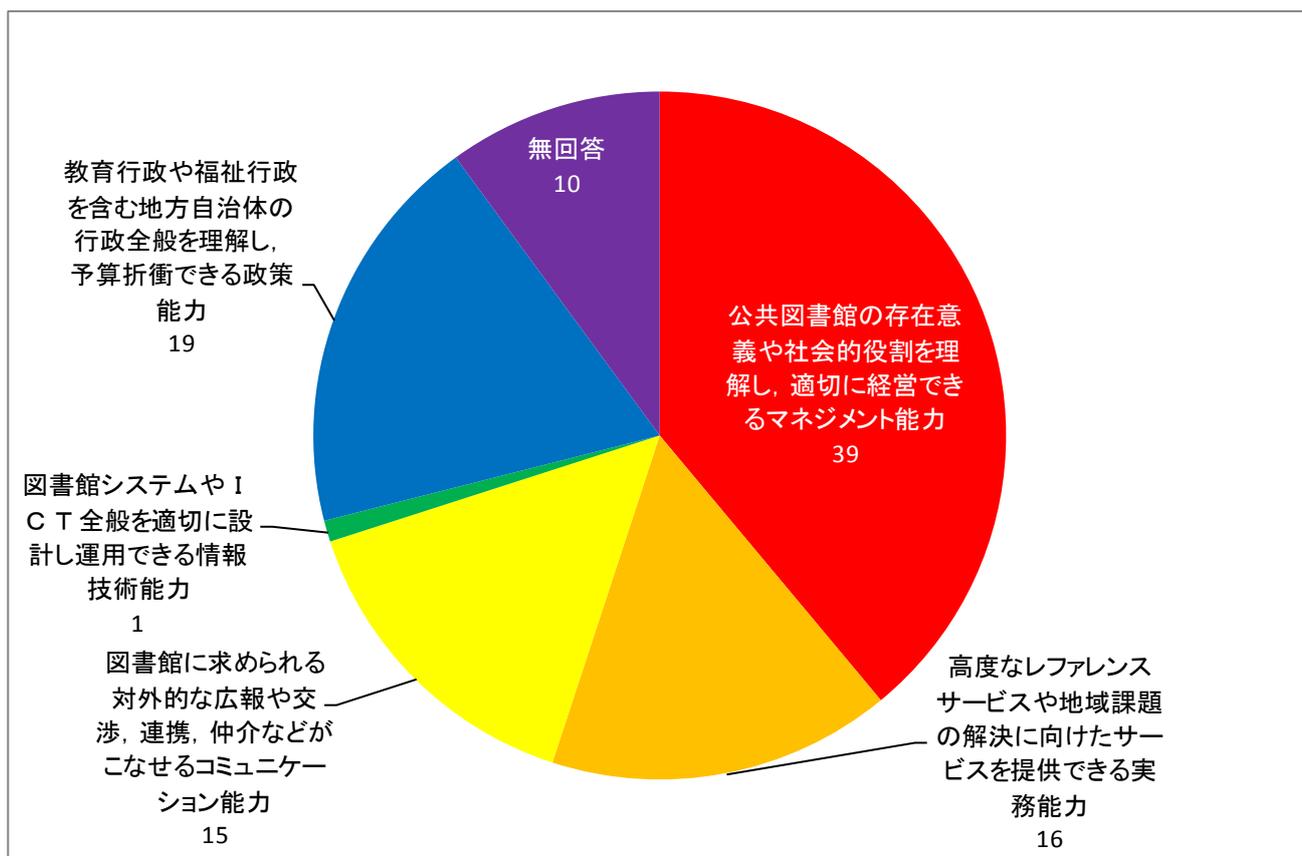
質問7 あなたは、現在の職場かどうかは別にして、将来的に図書館長を目指しますか？



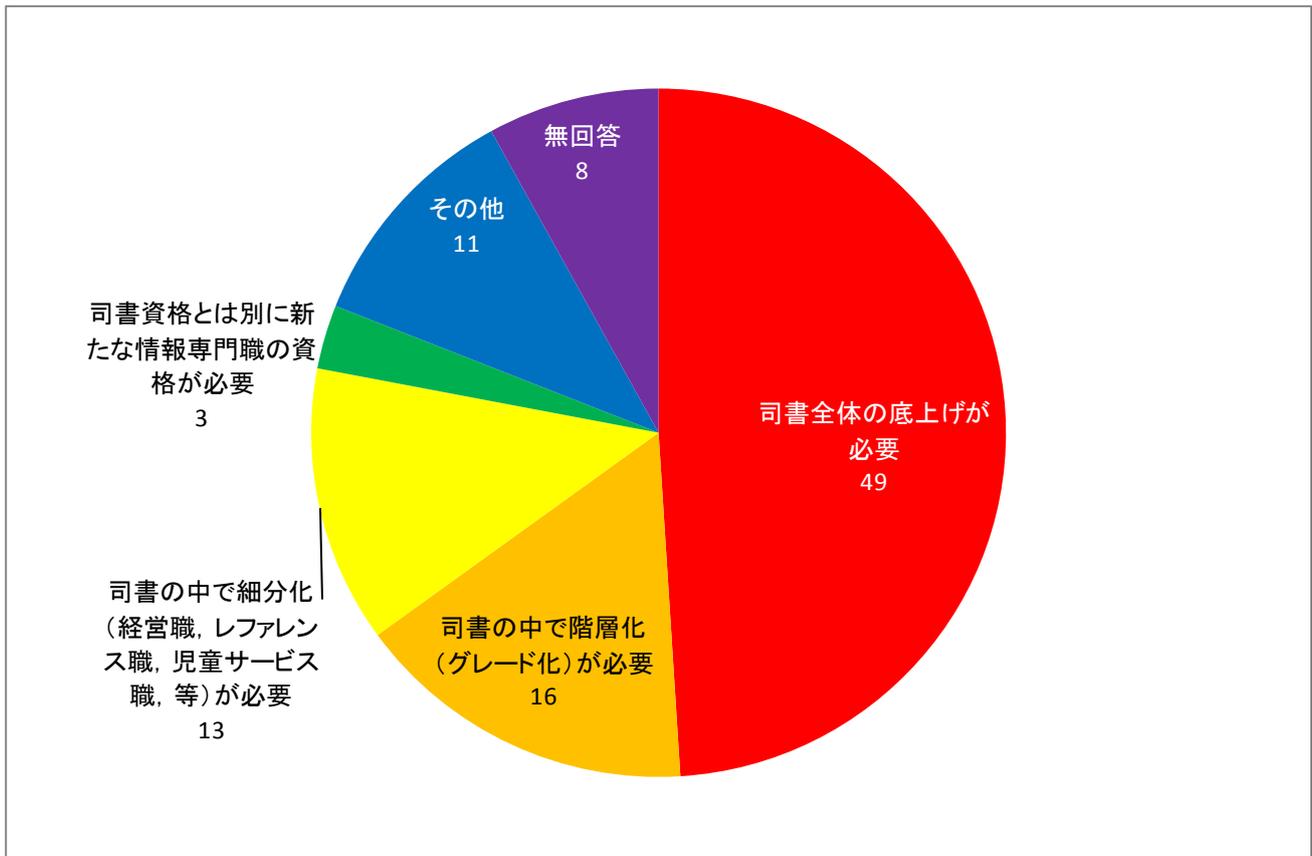
その他の記述

- すでに退職している。
- 思案中
- 目指しているが委託業社のため（指定管理ではない）可能性低い。
- 可能性がない
- 以前は目指していた
- 目指していないが、指名されたら大丈夫なように力量形成する
- なってもいいと思うことがある。選択肢の一つにはある。むしろ独立したい・・・
- 図書館長の目指すのではなく良い図書館づくりを目指したい。その結果として図書館長になっているかどうか、だと思います。
- 不明
- 質問の意味がわかりかねます
- 館長にするかどうかは他の人が決める事

質問8 認定司書に限らず、これからの司書に最も求められる能力は何だと考えますか？一つだけ選んで○で囲んでください。



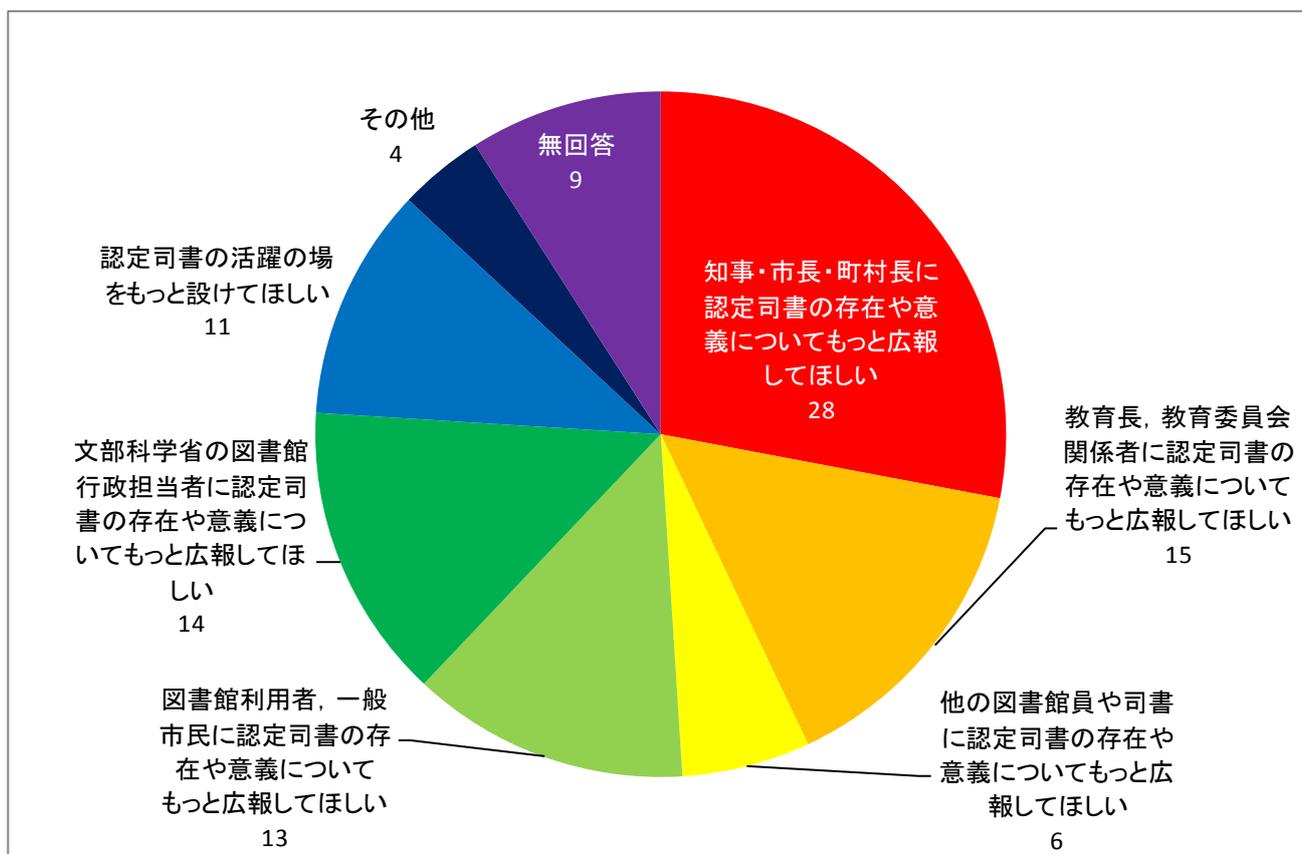
質問9 日本における司書のあり方について、あなたはどのように考えていますか？一つだけ選んで○で囲んでください。



その他の記述

- 専門職として仕事ができるような労働環境の整備
- 運営している主体によってかわるので一概にいけない。
- 専門職としての社会的地位向上（学校図書館司書を含む）
- 図書館に専門職員が必要であり、正規職員である司書をおくことを法律で定めることが必要
- 認定司書などのキャリアあるものに対して、さらなる研究機会の拡充＜例えば、大学院入学＞
- 図書館にとどまらず、企業、書店、ブックプロデューサー、リサーチャー等、様々な場所で働くことのできる資格になるべきだ。
- 身分保障が必要
- 「司書」とは何かについての明確な合意が必要
- 司書資格の国家資格
- 正規化、本務化など安定して働き続けられる環境が必要

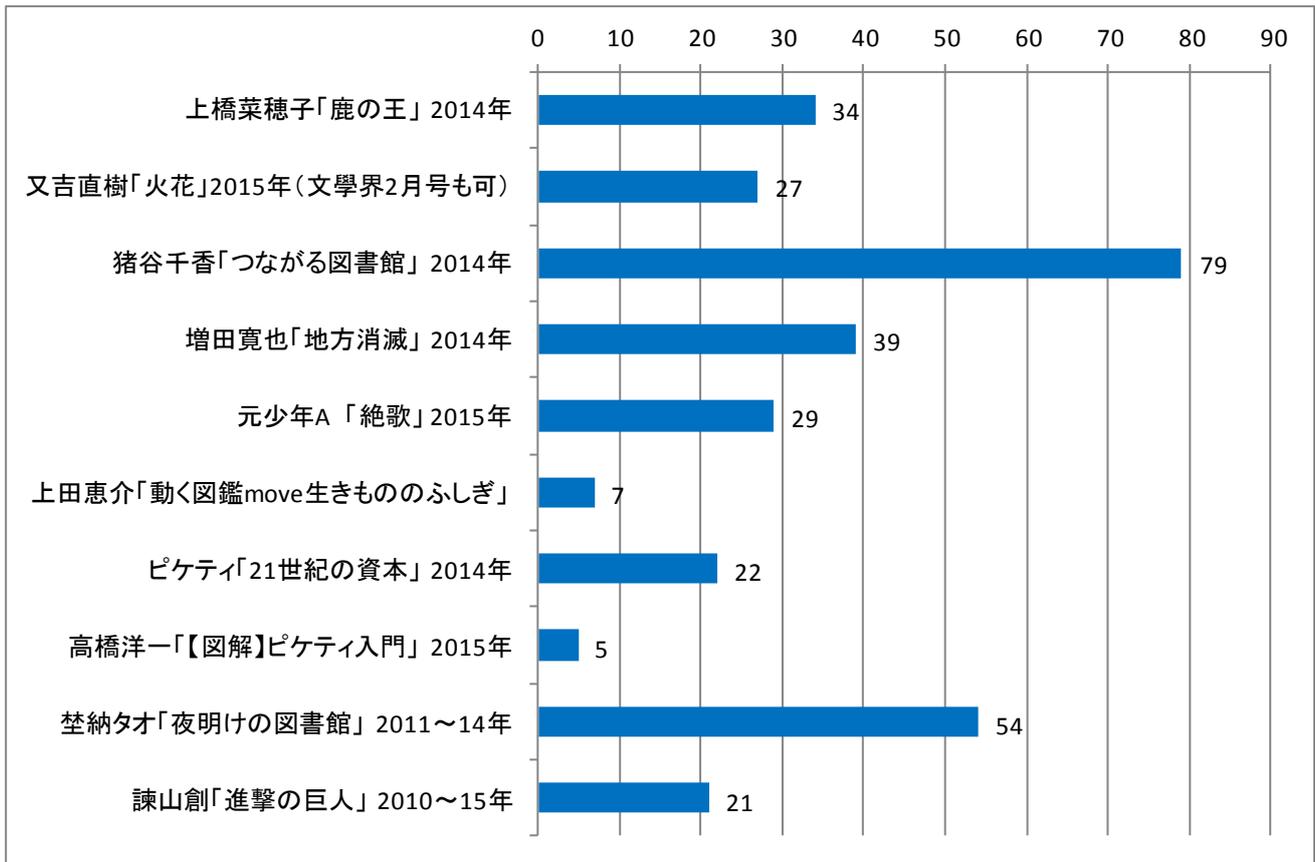
質問10 認定司書事業について、あなたが日本図書館協会に最も強く要望することは何でしょうか？一つだけ選んで○で囲んでください。



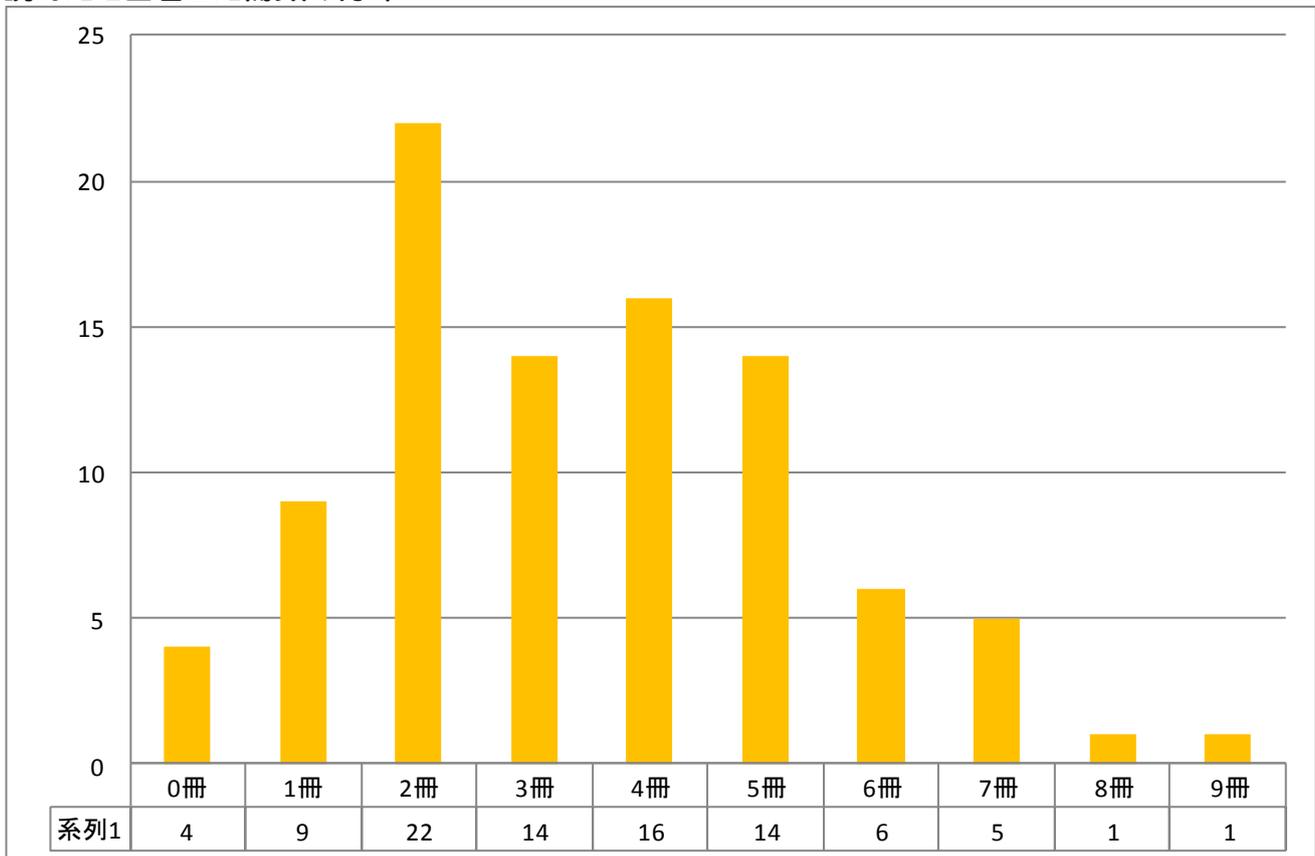
その他の記述

- 認定司書の存在や意義について広報すべきは上記51～55全てであると思う。認定司書自身による広報も重要だが、実際後楯として日図協にはPRの工夫があると思う。
- 認定司書制度を国家資格と連動できないか検討してほしい。
- 上記のようなことを認定司書が行うための場の設定と始めたときのバックアップ。何を始めても止めないでほしい。
- 特になし

質問11 読んだことのある本はどれですか？ 次の中で読んだ本の番号をすべて○で囲んでください。

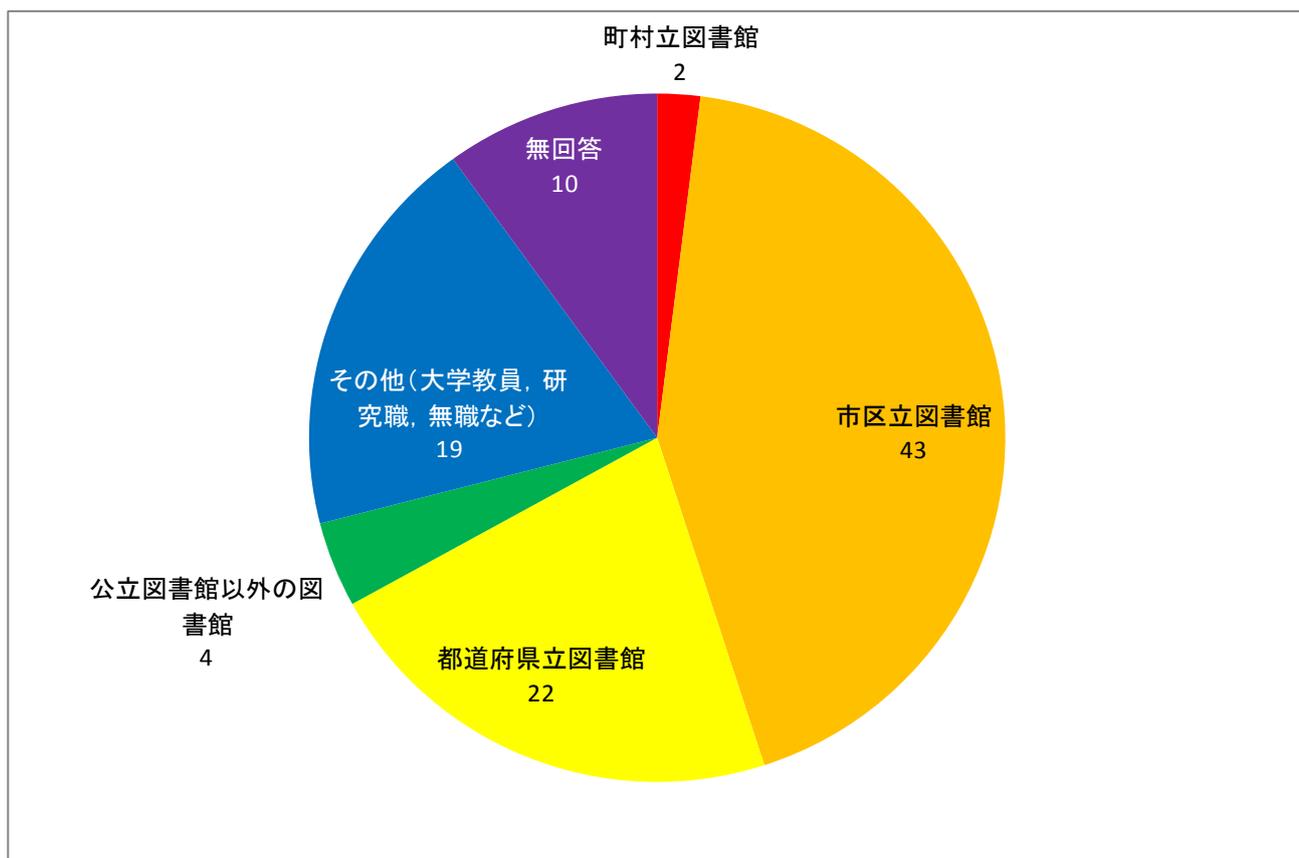


読んだと回答した冊数の分布

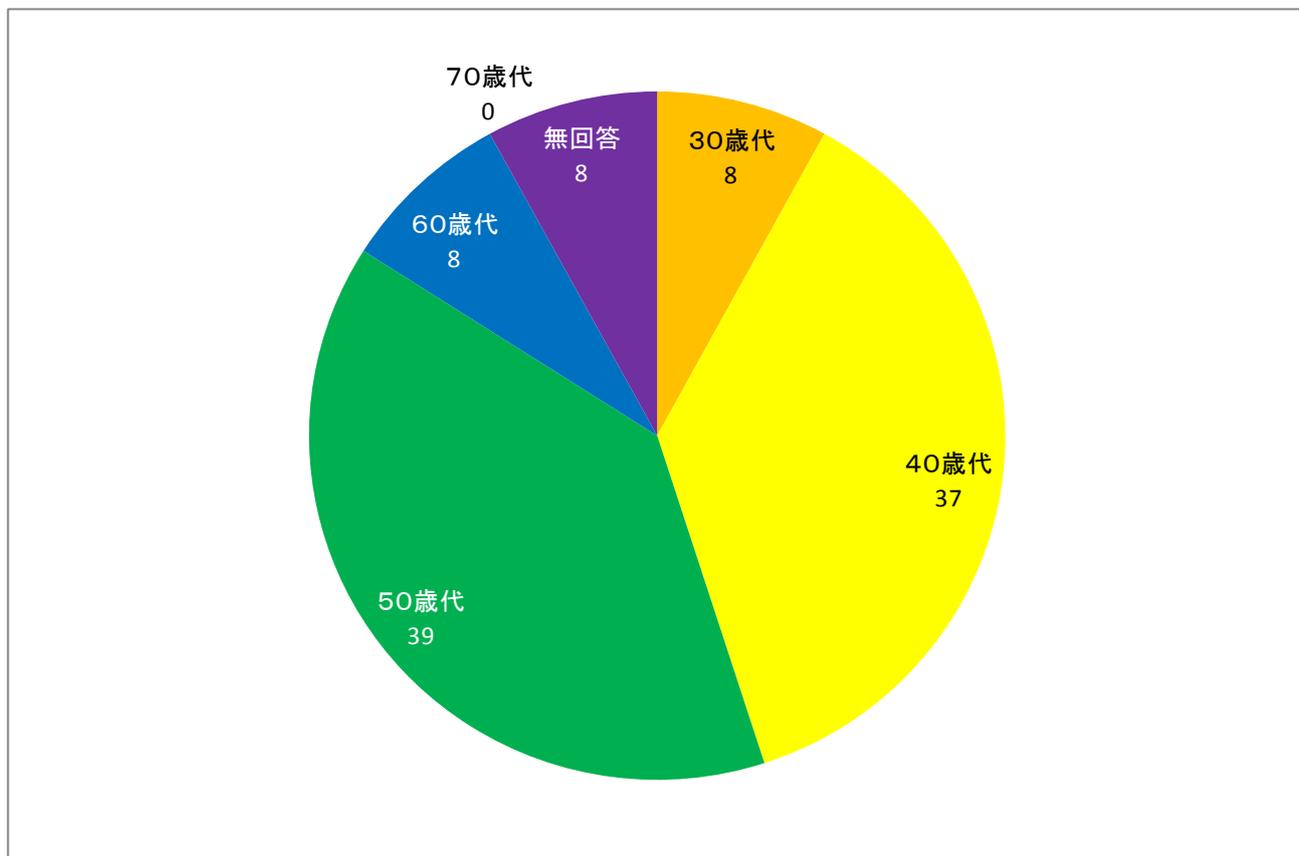


第17回図書館総合展フォーラム「図書館司書のキャリアデザイン―認定司書100人に聞きました!」配付資料

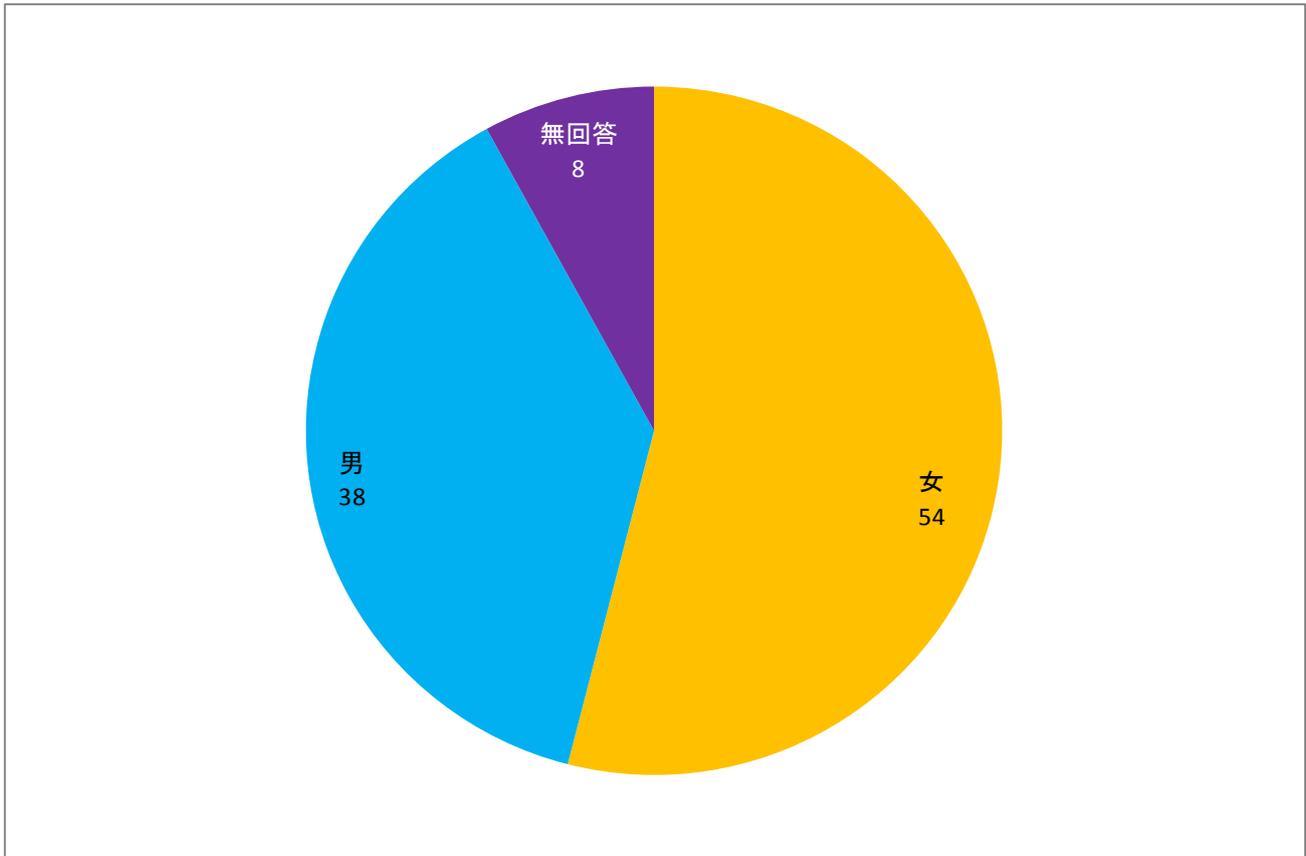
質問12 あなたが現在(2015年8月時点で)勤務する図書館は？



質問13 あなたの年齢(2015年8月時点では？)



質問14 あなたの性別は？



質問15 認定司書への申請を考えている他の司書に対して一言、お願いします。

大いにメリットを感じている(質問5で25を回答した人)

- ぜひ申請していただき司書の社会的地位の向上に取り組んでいただきたい。自己啓発の手段として大いに活用してほしい。
- 司書の社会的ステイタスをあげるために、一緒に活動していきましょう!!
- 自分の実力を公的に判断できる絶好の機会です。“受からなかったら…”などと考えず、前向きにチャレンジして下さい!! 申請に取り組むことが自分の司書人生を改めて考えるいい時間になりますよ。
- 申請は大変なことが多いと思われませんが、心をはげまして提出してみることをおすすめします。
- 認定司書を目標にがんばる必要はないと思いますが、「少しがんばったら、とれる」という人はがんばって申請した方がいいと思います。
- 万全の制度を待つよりも、今できることから始める方が早いと思います!!
- 苦勞して認定司書になっても得することはないかもしれませんが。でも私にとっては確実にプラスになりました(モチベーションや交流面で)。認定司書であることをどう生かすかは自分次第です!
- 認定司書は、「公」としては司書の役割や存在意義を対外的に周知する点で有効だと思います。
「私」としては、仕事に対してのモチベーションが上がります。
是非申請して欲しいです。
- 認定司書への申請を少しでも考えている人なら、誰でもチャレンジできると思います。自分のモチベーションを上げ、仕事への意欲を向上させるためにも、ぜひ挑戦してみてください。
- 迷っているなら絶対!
少しでも認定司書について気になっているのであれば、ぜひ、申請してください。損はしません!

少しはメリットを感じている(質問5で26を回答した人)

- 「司書」が単にはじまりであるように「認定司書」もまたはじまりにすぎないと思います。「認定司書」に何ができるのか、「司書」に何ができるのか、「図書館」に、あるいは「私たち」に何ができるのか、一緒に考えていきましょう。
- 新しいステップに挑戦することは、自分自身の次の一步、図書館の次の一步にもつながっていくと思います。皆様、ぜひ挑戦してみてください。
- 意欲があり、要件を満たしている方は、とりあえず申請されるとよいと思います。
- キャリア形成のふし目に、自分のこれまでの研さんや取組をまとめ、自分を見つめ直すとともに、文章を書くということに取り組むことが大切。
そして、申請の適切な時間確保を積み重ねれば、大丈夫。
- 仕事と論文の執筆の両立は大変かと思うが、ぜひがんばってもらいたい。
- 司書として仕事をしていくうえで、自分自身のモチベーションアップとスキルアップが課題の1つと思いますが、認定司書を目指しクリアしていくことでステップアップできるので、是非挑戦してみてください。
- 司書を専門職として認めてもらえるシステムができたのですから、自身のスキルアップの為にぜひ挑戦して欲しい。
- 自身のキャリア形成についてとらえなおすよいきっかけになるとと思います。また、町村図書館からの申請者が増えていくことを強く願っています。

次ページへ続く

少しはメリットを感じている(質問5で26を回答した人) <前ページからの続き>

- 自分の意見を論文にする作業は努力が必要ですが、認定司書に必要な能力なのでがんばってほしいと思います。
- 自分の日々の努力が目に見える形になるので、条件を満たせる方はぜひチャレンジしてみてください!(経験年数など自力ではどうにもならないこともあります)
- 周囲に気がねすることなく積極的に申請してほしいのですが、職場の中でも自他ともに認められるよう努力してほしいと思います。
- 申請条件を確認の上、“挑戦”あるのみ!
- ぜひ、チャレンジしてください!
- いっしょにがんばりましょう!
- ぜひチャレンジしていただきたい。
- チャレンジする価値はあると思います!第2のスタートラインです。
- どんなに勉強をしても、“何か足りない”と思っていました。短大のあれだけの科目でプロとして立ち続けるには限度があります。認定司書になってやっと「司書です」といえるようになりました。自己を確認するためにとっても必要だと考えます。
- 認定司書は一つのステイタスです。自分の専門性を高めるためにも申請して認定司書として活躍してほしいと思います。
- 表現力も含め、専門職として求められているレベルを確認する機会になると思います。また、社会の中での図書館の位置づけを意識するきっかけにもなります。私も先輩認定司書や上司に背中を押してもらいました。難しく考えず是非申請してみてください。
- 迷っているなら、挑戦してみてもいいでしょうか。日常の業務と離れたところで刺激を受けることができます。中身(知識やスキル)も大事ですが、形(資格、肩書)も時として役に立つことがあります。
- 要件をみたしている(みたせる)人はむずかしく考えずに、まずは申請してみてもいいでしょうか。
- 公務員として勤務する限りにおいては、あまりメリットがあるとは思えませんが、今後定着して人数が増えていけば、何か変わってくるかもしれません。がんばってください。
- 司書の仕事を広く知ってもらうため、また、社会的地位向上のためにも、多くの方に取得を目指していただきたいです。
- 私は異動で公共図書館を離れました。それをきっかけに公共図書館で働いた自分の司書としての能力を確認するために申請しました。
皆さんも司書としてのこれまでの自分をふりかえり、見つめなおし、これからの自分を考えるきっかけとして、申請してはいかがでしょうか!
- 私は認定司書の資格を取得するまでは、他の司書の人たちと特に違うところもなく、目立った活動もしていませんでした。
認定司書になりたいと思った一番の理由は、司書という仕事や自分の職場を社会的に認知してほしいというものです。
専門的な仕事であると社会的に認知をうけるためには、司書自身の努力がかかせません。日常的な仕事に追われ、日々忙しくしている方が多いと思いますが、ぜひ認定司書をめざして一歩をふみだしてほしいと思います。
- 自分が今までに興味を持ち取り組んできたことを整理することは、明日からの一歩につながります。
ぜひチャレンジしてみてください。
- 自分の仕事を見つめなおすいい機会になると思います。
- 図書館で40年以上働いてきたにもかかわらず、公務員での採用が一般事務だったため司書と名乗ることができませんでした。
公に自分は認定司書だといえるようになって、図書館がもっと好きになりました。認定司書への申請は、自分の意識を高めるきっかけになると思います。

次ページへ続く

少しはメリットを感じている(質問5で26を回答した人) <前ページからの続き>

- 日々の業務に追われがちですが、経験を形にする、そして、次につなげるために、ぜひ申請をしてみてください。
- 認定司書であることで雇用条件が変わるということは、現時点ではあまりないと思いますが、現場での扱われ方は代わってきたように思えます。資格を取得することそのものよりも、取得したあとにどのような成果があげられるのか・・・に注目されていることを意識すべきだと思います。
- 認定司書をめざすことで「研修に参加して論文を書くだけで業務に活かしていない」等の批判を受けることもあります。
私は認定司書にチャレンジすることは必ず自分の力となり意義あることだと考えています。がんばりましょう!
- 迷っているなら是非申請した方が良いと思います。
認定司書というつながりから、全国の様々な情報交換などが行なえるため、自分の経験の幅が広がります。また自分自身の司書としての業務について見直すきっかけにもなるので。

ほとんどメリットを感じることはない(質問5で27を回答した人)

- 「図書館員の倫理綱領」に「司書は不断の研修に努める」とあります。この言葉が大切です。
- 「大丈夫です。申請しましょう。ご一緒に何かできるといいですね。」
- いくら頑張っても、なかなか伝わりにくいなか、認定司書というバッチ(肩書き)があれば説明しやすい場面がでてくると思いますし、申請に際して今までの自分の仕事を振り返ることができ、これからの目標設定にも有効だと思います。
- 今は認定司書になることのメリットよりは、個々の認定司書の活動が認定司書全体のメリットになることの方が大きいと思います。いい意味で「意識の高い」司書は、申請を検討してみたいかがでしょうか。
- 現代の状況では認定司書に申請する必要はない
- これまで育成してくれた先輩に応えるため、また後輩の一モデルとなれるよう、気軽にチャレンジしてほしいと思います。
- 司書という職業の認知度アップと、地位向上の為、そして自己研鑽の為に、ぜひチャレンジしてください!
- 自分の力を形にすることが必要と思います。
- 自分のやってきたことを形にしてみませんか
- 専門職としての司書をアピールするため、継続的に人数がふえる必要があります。ぜひ申請してほしい。
- 認定司書は一つのステップですが、図書館界を少しは良くできる資格だと思います。精進してください。
- 広い視野を持つきっかけにもなるので、認定司書にトライする司書が増えてほしい。
- 他の認定司書と積極的に関わることが大切だと感じています(自分ができていないので)
- 研修に参加せよ!そして、やがては自らが発表者や講師となることをめざせ!
- 今のところ、認定司書になってもメリットはないと言われる方もいると思うが、実力のある人は多いのだから、とにかく認定司書になって、物申してほしい。
中小図書館では兼務で、多くの業務をかかえて忙しい方も多いと思うが、テーマを見つけて論文を書くのは必ずやよい経験になると思う。
- 仕事をしながら申請するのはとても大変でした。
申請をするチャンスがあれば、そのタイミングをのがさないようにしましょう!
- 自分のキャリアの客観視につながるので、取得をおすすめします。
- 少しの勇気と少しの努力もって認定司書資格の取得に努力して下さい。

次ページへ続く

ほとんどメリットを感じることはない(質問5で27を回答した人) <前ページからの続き>

- 申請するための準備は、自分自身、職場を客観的に見直すよい機会となりました。図書館で働くことを自分の中で再確認できました。
- 申請にあたって、論文・著作の作成で苦勞する方が多いのではないかと思います。自分が受講した研修を元に、この内容を自分の職場に活かしてよりよい図書館サービスを提供するにはどうしたらよいか、というテーマを設定すると書きやすいのではないかと思います。
- 日々の仕事を着実にこなすのも大切ですが、日々の自己研鑽とレベルアップを図らないと、組織の中でも利用者にも信頼されるようにならないのではないのでしょうか。
- 認定司書になるということは自分の能力を認定(評価)してもらおうということより仲間をつくるということだと思います。一図書館の中の一司書として奮闘するより地域や年齢や立場を越えた仲間をつくり、自分の勤務する図書館、みんなの図書館、ひいては多くの全ての図書館の前進につながるという大きく楽しくワクワクするような目標に向かって努力しましょう。
- 認定司書になるより認定司書であり続ける事の方が大変なのではないかと思います。これは現在の「司書」と同じです。でも申請できる環境であるなら是非申請して頂きたいです。

まったくメリットを感じない(質問5で28を回答した人)

- 特に周りの評価や仕事にメリットを感じることはありません。あまりすすめられない。
- 認定司書になりましょう!
- メリットはないかもしれませんが、少なくとも自分がこれまでどんな仕事をしてきたか、どんな学びをしてきたかを振り返ることはできますので、申請を前向きにご検討いただければと思います。
- 自身の人生の中で「職業」を大切に考え上級の資格や認定を目指す事は有意義です。非正規雇用であればなおさらに「職業」に対する姿勢を主張するべきだと思います。その働きかけが司書の職を守る事につながると思います。認定司書となり各自の職場で力を発揮すると共に全国の認定司書との連係を持ち見識を広めていただきたいと思います。
- 認定司書になりたいと思ったら、受験してみてください。Let's tryです。申請する際に、自分をみつめ、短所というか、弱い所がわかり、とても良い経験でした。認定司書になってから、それらしき事をしていませんが、じっくり、ゆっくり、考えていきたいと思っています。

わからない(質問5で29を回答した人)

- 図書館をめぐる環境は相変わらず厳しいものがありますが、業務以外で志を行動に移す機会ですので、是非申請して、よい司書になって下さい。
- 司書は、本と人を結びつけるのが仕事と考えられていますが、今日求められている専門性は、個々の本と人との出会いを越えて、地域・社会・大学(その図書館が責任を負う範囲)全体に何ができるか、何をしていかなければならないか考えることにあると思います。志高く持ってとりくんでください。
- 認定司書取得のためだけに論文を書くのではなく、論文でなく記事でもよいので、雑誌で発表してほしい。

質問16 認定司書制度全般についてご意見があれば、どうぞお書きください。

大いにメリットを感じている(質問5で25を回答した人)

- せっかくできた制度なので、広く周知を図り、この制度の品質を向上してほしい。社会的認知度を向上するような取り組みを行ってほしい。
- 特段、こだわっていたわけではありませんが、申請後、周囲からの評価が向上したことは、間違いありません。今後は自身の研さんはもちろん、司書職の社会的地位向上につながるよう努力してまいります。
公的機関への増々の周知をお願いいたします。
- 日本図書館協会に対しては、認定司書制度について引き続き周知をお願いしたいですが、大切なのは認定司書個人個人が自分を高めることで周囲から認知してもらうことだと思います。
また、グループ単位で何かを勉強したり、発表したりするのも有効だと思います。
- 認定司書となるための最も高いハードルは勤務要件です。(自治体正規職員の場合)司書の専門性について、広く認知されることが大切だと思います。
- 認定司書制度がもっと社会的に認知され、また評価されるようになると良いと思います。また、認定司書が活躍できる場があると活動しやすいと思います。
- 非正規で働く司書が、認定司書を取得することにより正規採用への道が開けるような制度になればと思います。
(そのために、どういう制度を設計したらよいのか、個人的にはわかりませんが、そういう制度であって欲しいと願います)
正職員が司書資格のない一般職、司書有資格者が嘱託や臨時職員という、今の公共図書館の現状を変革するうえで、認定司書制度に強い期待をしています。

少しはメリットを感じている(質問5で26を回答した人)

- 「認定司書」にはじないようにしっかり働きます。
- 「認定司書」以前に「司書」自体が世間一般に知られておらず、残念に思います。「司書に相談してよかった」と多くの方に思ってもらえるよう司書全体の底上げが必要だと思います。
- 論文集とか、自分のやっていることのイヤレターのようなものがつくれないでしょうか?他の館のやっていることはとても役立ちます。
あと勉強会とか、論定のためだけではなく、認定司書ですずっとやっていくための勉強をです。“まぐれでなったんでしょ?”ではないことを示していきたいです。
- Facebookのグループはありますが、もう少し横のつながりなり、懇親の機会があると嬉しいです。
- 経験年数は非常勤・非正規雇用の多い現在、満たすことの最も難しい条件だと思います。自分の努力ではどうにもなりません。大学図書館経験の扱いもですがもう少し緩和されても良いのではと思います。
- 国家資格化が必要だと思います。
- この制度をぜひ引き続き拡充して下さい。
- 社会に認定司書制度が十分に知られていないので、もっと社会や行政に広報をする必要があると思います。
- 先日あるイベントで、県立図書館の現職員の方に認定司書とは何かときかれた。図書館職員の中でも、有資格者でない行政職員や教員には、浸透していないことを改めて感じた。5年で100人をどうとらえるべきか、これからの方向性はどこに向かっているのか?不安になった。

次ページへ続く

少しはメリットを感じている(質問5で26を回答した人) <前ページからの続き>

- 知名度のアップ。行政側への理解の推進。
- 特になし
- とても良い制度が整ったと思います。業務委託が増加傾向の昨今、正規で勤務できない司書が組織の中で認められることがなく、モチベーションが下がり、その質まで低下しない為にもこの制度を広く多くの人々に知ってもらい、品の高い一匹狼司書が組織に属さなくても活躍できる様にしたい。
- 認定司書がまだまだ少ないと思う。経験10年以上の司書はみんな認定司書を目指す位になってほしい。そのためには、司書資格を目指す人々に対する認定司書への理解を促進する方策が必要と思う。
- 認定司書向けの論文投稿の媒体をもうけていただければ(紙、冊子、webなど)
- 安定的な雇用環境があってこそ、仕事にやりがい生まれ、専門性も深まっていくと思います。認定司書制度単独で何か解決できるわけではなく、協会の他の事業との連携など多面的、立体的なとりくみも必要だと考えます。
- 司書の社会的認知、図書館の社会的認知につながるよう願っています。(そのためにも自分自身もがんばります)
- 社会的な認知が低く、資格をとったとしてもメリットが少ないと思われる。実際にはFBなどで、他の認定司書とつながることができ、モチベーションアップにはなっているので、そういう面でも広報すればよいのではないかと。
この制度は住民や行政に知ってもらうために日本図書館協会からの働きかけが不可欠。認定資格のある司書がいる図書館だということを示すポスターやチラシもあつたら良いと思う。
- 全体としてフェイスブックでつながっていますが、地区毎や関心分野毎でのつながりをもっと少し深めることができるよう、研究部会や共同で何か行なうようなこと等図書館界をけん引できるような取組みをしなければ、資格取得だけでとどまってしまうのでは。
- 総合展での取り組み、よいと思います。このような「場」をつくることをもっとしていただければお手伝いをしていこうと思います。そして我々からの発案にもこたえてください!
- 対外的な活動ばかりでなく、現場での活動を主に評価していただけるような項目を、選考基準に設けていただけると嬉しいなと思っています。
- 認定司書が、司書のどんな能力に対して担保している制度なのか今ひとつ明確ではないような気がします。
- 認定司書の価値は、論文力(文章力、構成力、実践内容とその成果)だと思います。ある程度、自己研鑽を積めば、大半は認定司書になる、とはならないように、“提出論文の審査は厳しい”という印象を一層強めていただきたい。
- 認定司書の多様な実践事例の特徴をみることが必要です。
推測では、例えば、トピックスや最新動向への関心、利用者要求・地域の課題の理解・把握・冷静な利用者対応、図書館とそれを取り巻く状況の把握、課題の分析理解・解釈方法の提起、研修・教育・研究への関与、委員会・社会活動への関与、認定司書のコミュニティを活用した情報共有・やりとり、機関・団体との連携、図書館評価等の取組、といった熱心な取組や努力、高いモチベーション、図書館変革の力量発揮です。
- 認定司書の認知度を上げるため、PRを積極的に行っていたらと思います。
- 認定司書の認定期間は10年間なので、更新できるように頑張ろうと活動しています。認定司書制度を10年後、20年後にどうするのか長期的な計画と目標を示していただきたいと願っています。
- 本制度と対応して、日本図書館協会が実務者向けにさらに充実した研修メニューを構築することが必要だと思います。

ほとんどメリットを感じることはない(質問5で27を回答した人)

- 認定司書としての行動は、大切だということは理解できますが、認定司書のオーソライズを認定司書に求めるのは、認定者のすべきことを委ねているように思います。当初の目的にあった自治体の図書館のミッションをまじめに遂行していると、それほど余裕があるわけではない年代なので、つらく思うことがあります。
- 「自己満足の域を出るものではない」という表現をされている認定司書ですが、とりまく状況がきびしくなる図書館界で自分として何かできることはないか、と考えて申請した認定司書です。この資格がさらに広くみとめられるよう仕事にはげみたいです。
- 第一期の申請人数を見て、「こんなに少ないのか」と驚きました。経験年数などを満たしていても、実際に申請する人は少ないのではないかと考えています。
「認定司書になってもメリットがないし・・・」などと考えている方、これ以上講師の口が回ってきても、、、と二の足を踏んでいる方が多いように思います。
1つの都道府県で5~10人の認定司書がいれば、随分状況も変わってくるのではないのでしょうか。
- JLAが力を注ぐにふさわしい事業と思います。
- 自主的な活動がまったくできていない。認定司書による提言や論文集が必要。背景としては、認定司書をハーディングする組織構成が必要であり、現在は機能していない。
- 司書職制そのものの抜本的な改革がなければ、日本の図書館の未来は無い
- 実質的には「公共図書館」の司書への認定なので、そのことを強調した方がいいのではないのでしょうか。
- 住民、関係機関の認知度がまだまだにきいため、制度の周知を期待します。また、自分自身も努力していきたいと思います。
- とにかく多くの人に認知されるようにならないと意味を為さないと思う。
- 長い論文をかけなくても優秀な司書はたくさんいる。論文以外の応募要件もあるとよいと思う。
- 認知されるのに時間がかかると思うが、自分もその一役をになえるように研鑽していきたい。
- 一般市民に知ってもらえるようにJLAが広報すること！
氏名非公表が許される制度は、遑って廃止すること！
- 現在のところ、認定司書についての知名度が低く、メリットは感じないが、自治体にとって、“うちの図書館には認定司書が〇人もいる”“認定司書率〇%”と自まんされる存在になってほしい。
そのためには自治体の長や教育委員会関係者に知ってもらうことが近道だと思える。とりあえず名刺に認定司書〇号も入れ、自己PRはしていきます。
- 実務レベルで評価されるところが、申請書類はないな(もしくは少ない?)と感じました。また、組合活動は評価に入らないとあり、非正規で活動している人があり、首がつながる人も多い中、残念と感じました。
- 正直なところ、私個人に関して言えばこの制度について対外的には何のメリットも感じていません。ただ、これは自分自身が外に向かってどんな働きかけをしていくのかの問題だと思いますので、自分の努力不足を痛感しています。協会側からのバックアップのなさは問題かなとも思っています。認定司書なんだから何かやるのが当たり前、自分でがんばってね、ではなく、地方の小さな図書館の司書でも活躍できるようなフォローをしてもらえるとうれしいです。
- 先の回答でも触れましたが、利用者や市民に対する社会的認知度を向上させることをまず優先的に行う必要があると考えます。
- 他館種の図書館員にも同様な制度を他団体と協力・連携して進められればと思います。
- 他館種への拡張について、他館種の人達(会員)がどのように考えているか知りたいところです。

まったくメリットを感じない(質問5で28を回答した人)

- 今回のように認定司書全員のアンケートを取る活動はとても良いと思います。これからも図書館界で起きた様々な問題に「認定司書はこう考える」というように意見を発表できたらと考えます。
1期で認定されたメンバーには既に図書館界で活躍されていらっしゃる方々が多く、認定司書の活動には関心が無いのでしょうか・・・?Facebookにも反応がなく、頼まれて申請されたのかと思ひ残念です。”
- 自分より実績も経験もある方でも「何もメリットがないから」という理由で申請していらっしゃるいません。確かにメリットはありませんが、自分のように何となく申請してしまった者は何となく申し訳ない気持ちになります。
アンケート項目10で55を選択しましたが、地方公共団体レベルではなく、国の社会教育行政、図書館振興の中に「認定司書」の意義や役割が位置づけられない限り、認定司書になったことのメリットは生まれにくいと思います。
公共図書館メインの制度であるため、大学図書館や学校図書館にお勤めの方々にとっても申請しやすい制度になるとよいと思います。
- 認定司書として活躍できる場がほしい。活躍できるのはやはり正規の人だと思う。非正規がステップアップできる一助となる資格になってほしいです。

わからない(質問5で29を回答した人)

- 認定司書であり続けるためのハードルを何らかの形で上げないと、長期的には制度の劣化もあり得ると考えます。制度設計の手直しも必要ではないでしょうか。
- 応募者をもっと増やす必要がある。

付録:調査票

「図書館司書のキャリアデザインー認定司書 100人に聞きました！」

認定司書事業委員会 2015年8月

- 1 司書になろうと考えたのはいつごろでしたか？ 一つだけ選んで○で囲んでください。
 1. 小学生のころ
 2. 中学生のころ
 3. 高校生のころ
 4. 短大生・大学生のころ
 5. いったん別の仕事に就いてから
 6. 特に司書になろうと考えたことはない

- 2 認定司書を目指した理由は何ですか？ 一つだけ選んで○で囲んでください。
 7. 司書の仕事継続するうえで役立つと考えたため
 8. 司書としての自分の能力を公的に確認してもらうため
 9. 人事異動や就職・転職の際、有利になると考えたため
 10. 自分のこれまでの研鑽努力を評価してもらうため
 11. 司書の社会的地位の向上につながると考えたため
 12. その他 ()

- 3 認定司書申請を決意してから、実際の認定までの期間は、おおよそどのくらいでしたか？
 13. 1年以内
 14. 2年以内
 15. 3年以内
 16. 4年以内
 17. 4年以上

- 4 認定司書の申請にあたって最も課題となったこと、最も苦勞したことは何でしたか？ 一つだけ選んで○で囲んでください。
 18. 図書館法第2条にいう図書館の勤務経験年数
 19. 研修受講, 社会的活動のポイント充足
 20. 論文・著作の作成
 21. 職場での理解, 人間関係
 22. 家事, 育児など家庭との両立
 23. 特に無かった
 24. その他 ()

- 5 認定司書になってメリットを感じていますか？ あるいは感じたことがありますか？ 一つだけ選んで○で囲んでください。
 25. 大いにメリットを感じている
 26. 少しはメリットを感じている
 27. ほとんどメリットを感じることはない
 28. まったくメリットを感じない
 29. わからない

- 6 前問で「25. 大いにメリットを感じている」または「26. 少しはメリットを感じている」とお答えの方にお伺いします。そのメリットは具体的にどのようなことですか。あてはまる番号をすべて○で囲んでください。
- 30. 仕事に対する意欲・モチベーションが向上した
 - 31. 仕事に対して自信がもてるようになった
 - 32. 昇級・昇格・昇進の際に考慮されるようになった
 - 33. 異動の際に専門的知識・能力が考慮されるようになった
 - 34. 研修・出張などの際に考慮されるようになった
 - 35. その他 ()
- 7 あなたは、現在の職場かどうかは別にして、将来的に図書館長を目指しますか？
- 36. 目指している
 - 37. 目指していない
 - 38. 現在、館長である
 - 39. 以前、館長であった
 - 40. その他 ()
- 8 認定司書に限らず、これからの司書に最も求められる能力は何だと考えますか？
一つだけ選んで○で囲んでください。
- 41. 公共図書館の存在意義や社会的役割を理解し、適切に経営できるマネジメント能力
 - 42. 高度なレファレンスサービスや地域課題の解決に向けたサービスを提供できる実務能力
 - 43. 図書館に求められる対外的な広報や交渉、連携、仲介などがこなせるコミュニケーション能力
 - 44. 図書館システムやICT全般を適切に設計し運用できる情報技術能力
 - 45. 教育行政や福祉行政を含む地方自治体の行政全般を理解し、予算折衝できる政策能力
- 9 日本における司書のあり方について、あなたはどのように考えていますか？
一つだけ選んで○で囲んでください。
- 46. 司書全体の底上げが必要
 - 47. 司書の中で階層化（グレード化）が必要
 - 48. 司書の中で細分化（経営職、レファレンス職、児童サービス職、等）が必要
 - 49. 司書資格とは別に新たな情報専門職の資格が必要
 - 50. その他 ()
- 10 認定司書事業について、あなたが日本図書館協会に最も強く要望することは何でしょうか？
一つだけ選んで○で囲んでください。
- 51. 知事・市長・町村長に認定司書の存在や意義についてもっと広報してほしい
 - 52. 教育長、教育委員会関係者に認定司書の存在や意義についてもっと広報してほしい
 - 53. 他の図書館員や司書に認定司書の存在や意義についてもっと広報してほしい
 - 54. 図書館利用者、一般市民に認定司書の存在や意義についてもっと広報してほしい
 - 55. 文部科学省の図書館行政担当者に認定司書の存在や意義についてもっと広報してほしい
 - 56. 認定司書の活躍の場をもっと設けてほしい
 - 57. その他 ()

